

第1回 ライトノベル作法研究所主催 大夏祭り大会 選評評価シート

作品名：「このドアを開けたら」

テーマ：「ドアを開けたいのに、なかなか開けられない美少女」

キャラクター

60

ストーリー

55

テーマ(設定)

65

文章力

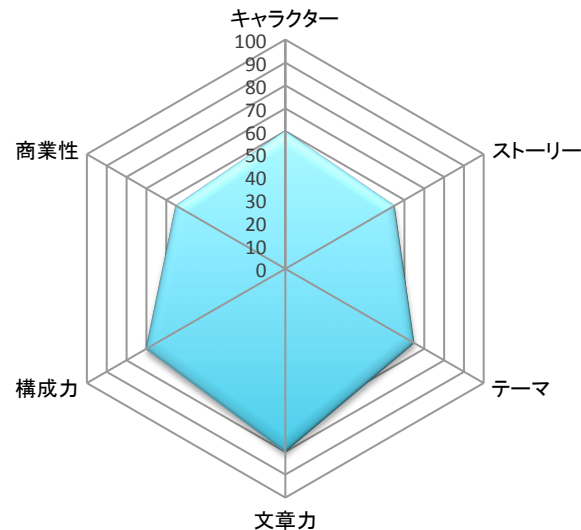
80

構成力

70

商業性

55



・見受けられる基礎的な問題点

- ・キャラクターに個性がない(もしくはその個性を生かしきれていない)
- ・キャラクターの設定にオリジナリティがなく、読んでいて新鮮さに欠ける
- ・キャラクターの行動に動機がなく、物語がご都合展開になってしまっている
- ・物語の方向性が定まっておらず、読む側にだるさを感じさせてしまっている
- ・物語に登場人物達にとっての障害が登場せず、盛り上がり欠ける
- ・テーマ(世界観)が既存の作品の焼き回しで差別化されていない
- ・物語上必要のない設定を多く登場させ過ぎている
- ・意味の無い暗いテーマ(人の死、暴力等)が扱われており、後味が悪い
- ・プロットの練り方が甘い(基本的な起承転結が意識されていない)
- ・時系列の流れが不自然、もしくは視点移動が多過ぎて構成が理解しにくい
- ・物語の情景描写が足りず、読んでいて状況を想像できない
- ・文章が難解かもしくは文法的に問題があり、よく読まないと内容が理解できない
- ・伏線的な要素がなさすぎて驚きに欠ける
- ・笑いをとれる下ネタが少なく、読んでいて冷める下ネタが多い
- ・「この作品の最大の魅力はこれ!」というものが無い

・総評 (もしくは、今後これをやったら更に面白い作品を書けるようになるかもという話)

・所々の文章や表現が非常に面白かった。+2。ゾンビバニックで人類が減ってきている現状を受けた上で真尋を「消去法的に最愛の人」を端的に表現したのは巧い。「世界中の人体というアパートに、謎めいた新入居者」という表現も寄生の言い換えとして非常に面白かった。「Q.で、治療法は? A.ありません!」等も斬新かつどこか滑稽でくすりと笑ってしまった。この文章力・表現力は作者様にしかない強力な才能(努力の賜物?)であると感じる。今後もこの文体が活かされるようなエンターテインメント作品を書くべき。

・一つの短編として成立しているためほとんど指摘する点が見つからないが、強いて問題点をあげるとするならばライトノベル的なエンターテインメント性には欠けるといえる。ストーリー自体は「お兄ちゃんいつらっやいーお兄ちゃんいつらっやいーお兄ちゃんいつらっやいー」という単純なものである。もう少し主人公である謎の能動的な動きがあった方が商業的にもストーリー的にも面白くなったかもしれない。例えば謎が兄ゾンビにすぐ捕まって噛まれるのではなく、一回偶然にも回避してから感情的になって「私のお兄ちゃんを返せ!」とゾンビ化したお兄ちゃんに攻撃を加えるが努力むなしく自分もゾンビ化、など。

・作品修正の先走りについては減点しない方針となりました。

合計加点ポイント 2

総得点: 385 / 600

B方式総合得点: 24904 点